

本渡の旧・新正月の移行時期について

天草市立天草アーカイブズ

旧本渡市域では、昭和 33 年までには新正月への移行は済んでいるようです。

天草では新正月に一本化されるまでは、(いつからかは定かではありませんが)新・旧どちらの正月も祝っていました。

暦通り新正月でも祝日があり、旧正月にも 1・2 日の休日があったようで、旧正月にも晴れ着を身につけ、買い物客で本渡は大賑わい、また青年団や警察による旧正月前のパトロールなども行われていたようです。

旧正月祝いが続いていたのは、農業・漁業をしている人にとっては、新正月時期では仕事がまだ落ち着いていないからという理由も大きかったと思われます。

戦後、昭和 22 年頃から新生活運動が全国に広まり、「旧暦慣行の是正」や「冗費の節減 と貯蓄の奨励」という考えから、天草でも早い段階から新正月への一本化は話が出ていたようです。

昭和 28 年時点では、『天草新聞』に、本渡は官公庁舎の勤め人が多いこともあり新正月を祝う人の方が多い(新正月の前の方が呉服の売上げが多い)が、天草全体では旧正月も多く祝われている旨の記事がありました。

『みくに』や『天草新聞』などの郷土新聞を見ますと、昭和 28 年から公民館や婦人会でも新正月への一本化が話し合われており、『広報ほんど』昭和 29 年 12 月号にも新正月の一本化についての記事が掲載されるなど、正月一本化への本格的な運動が始まっています。

S34. 12. 11 の『みくに』の記事に、現在は本渡市・牛深市・大矢野町ほか合わせて 10 市町村が新正月一本、残る 5 ヶ町村が移行途中という内容がありました。

S32. 12. 11 の『天草新聞』に「宮地岳新正に決る 七日の区長会で」という記事がありましたが、宮地岳が旧本渡市域では最後に一本化がされたのではないのでしょうか(注：宮地岳は昭和 32 年 4 月に本渡市に編入)。

参考資料

- ①『五和町史資料編(その 12) 五和町の民俗「聞き書集」』
- ②みくに新聞
- ③天草新聞

※①は図書館・本渡歴史民俗資料館・天草アーカイブズで閲覧が可能です。

※②③は天草アーカイブズで閲覧が可能です。